

第3回（通算106回）理事会・拡大執行委員会 議事録

- 1 開催年月日及び時刻 2024年12月6日（金）8:50-9:00 理事会
2024年12月6日（金）9:00-12:50 理事会・拡大執行委員会
- 2 開催場所 東京都文京区本郷七丁目2番2号 当法人事務所会議室
- 3 出席理事数（総理事数20名） 山中 宏二（理事長／人材推薦委員会委員長）、加藤 忠史（副理事長）、合田 裕紀子（副理事長／国際連携委員会委員長）、花川 隆（総務理事／倫理委員会委員長）、田中 謙二（人財育成・他学会連携担当理事）、池田（村松） 里衣子（神経科学ニュース編集委員会委員長）、岡部 繁男（第47回大会長）、岡本 仁、久保 郁、高橋 良輔、林 康紀（脳科学辞典編集委員会委員長）、平井 宏和（第50回大会長）、藤山 文乃（第48回大会長）、宮田 麻理子（生物科学連合担当委員会委員長）、柳沢 正史（理事）、柚崎 通介（法人化推進委員会委員長）、渡部 文子（ダイバーシティ対応委員会委員長）
（出席理事数：17名、全理事はWeb会議システムにより出席）
- 4 議長 山中 宏二
- 5 出席監事名（総監事数2名） 後藤 由紀、富田 泰輔（出席監事数：2名）
- 6 委員長等出席者 國松 淳（理事長補佐／JNS創立50周年記念行事WG委員長）、筒井 健一郎（理事長補佐）、吉本 潤一郎（理事長補佐／情報基盤整備委員会委員長）、奥村 哲（ブレインビー委員会委員長）、掛川 渉（ホームページ委員会委員長）、上口 裕之（第49回大会長）、竹村 文（動物実験委員会委員長）、中島 欽一（アルトマン賞選考委員会委員長）、Thomas J. McHugh（NSR委員会委員長）、尾藤 晴彦（将来計画委員会 日中韓WG委員長）、松田 哲也（アドボカシー委員会委員長／利益相反委員会委員長）、松元 健二（アウトリーチ委員会委員長／産学連携推進委員会委員長）、宮川 剛（将来計画委員会委員長）
- 7 事務局等出席者 江口 麻耶、窪寺 明子、三瓶 あゆ子、地主 志保、吉田 優子
- 8 欠席者等 村山 正宜（会計理事）、磯村 宜和（理事）、小林 和人（理事）、大塚 稔久（大会委員会委員長）、勝野 雅央（学術多様性委員会委員長）、上川内あづさ（奨励賞選考委員会委員長）
- 9 報告事項
 理事会報告 理事選挙に関する報告（理事のみ出席）
 第1号報告 総務報告
 第2号報告 NEURO2024（第47回）大会 終了報告
 第3号報告 第48回（2025年）大会 準備報告
 第4号報告 NEURO 2026（第49回）大会 準備報告
 第5号報告 JNS創立50周年記念行事WG 準備報告

第 6 号報告	Neuroscience Research 報告
第 7 号報告	奨励賞選考委員会報告
第 8 号報告	アルトマン賞報告
第 9 号報告	理事選挙 準備・実施報告
第 10 号報告	アジアオセアニア神経科学連合（FAONS）報告

10 審議事項

第 1 号議案	アルトマン賞 趣旨規定の改定
第 2 号議案	第 51 回大会（2028 年）大会の会場
第 3 号議案	NSR 次期編集主幹の選任
第 4 号議案	海外会員制度の再検討と賛助会員特典の強化

11 各委員会・WG の活動報告

第 1 号報告	人材推薦委員会報告
第 2 号報告	将来計画委員会報告
第 3 号報告	将来計画委員会 日中韓 WG 報告
第 4 号報告	人財育成 WG 報告
第 5 号報告	大会委員会報告
第 6 号報告	国際連携委員会報告
第 7 号報告	情報基盤整備委員会報告
第 8 号報告	神経科学ニュース編集委員会報告
第 9 号報告	ホームページ委員会報告
第 10 号報告	アウトリーチ委員会報告
第 11 号報告	産学連携推進委員会報告
第 12 号報告	アドボカシー委員会報告
第 13 号報告	利益相反委員会報告
第 14 号報告	脳科学時点編集委員会報告
第 15 号報告	学術多様性委員会報告
第 16 号報告	ダイバーシティ対応委員会報告
第 17 号報告	倫理委員会報告
第 18 号報告	動物実験委員会報告
第 19 号報告	ブレインビー委員会報告
第 20 号報告	生物科学学会連合担当委員会報告
第 21 号報告	脳科学関連学会連合担当委員会報告

12 議事の経過の要領及び結果

代表理事山中宏二は、定刻に議長席につき、Web 回線及び Web 会議用装置からなる Web 会議システムを用いて本理事会を開催し、開会を宣し、上記のとおり定足数にたる理事の出席があったので、本理事会は適法に成立した旨を述べた。また、WEB 会議システムにより、出席者の音声が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態であることを確認し、議案の審議に入った。

【報告事項】

理事会報告 理事選挙に関する報告（理事のみ出席）

理事会・拡大執行委員会に先立って、山中宏二理事長より理事に対し、2025 年度理事選挙の立候補者選出について報告が行われた。

第 1 号報告 総務報告

花川隆総務理事から、会員構成や会員数の推移、協賛後援名義に関する報告があった（添付資料 A、B 参照）。全体としての会員数は近年回復・増加傾向にあるものの、正会員の人数は減少していることに言及があり、このあとに審議事項として海外会員制度の見直しについて議論する予定であることが述べられた。他に、後援や協賛名義の許可先の報告があった。

第 2 号報告 NEURO2024（第 47 回）大会 終了報告

岡部繁男大会長より、NEURO2024（第 47 回大会福岡）の終了報告が行われた。収支含め成功裏に終了したことが報告された。参加者の増加は参加費の値下げ、海外・女性シンポジストの増加はシンポジウム助成の確約が、それぞれ影響したとみられるとの意見が述べられた。

第 3 号報告 第 48 回（2025 年）大会 準備報告

藤山文乃大会長より、第 48 回大会（2025 年新潟）の準備状況につき、助成財団への申請やスポンサー獲得のため積極的に活動中との報告があった。大会中に行われるイベントで、内容が重複しそうな企画は、関係者同士で調整後に大会長宛てに連絡いただくこととなった。

第 4 号報告 NEURO 2026（第 49 回）大会 準備報告

上口裕之大会長から、プレナリーレクチャーの演者 4 名から内諾を得られた旨の報告があった。今後、特別講演や教育講演についても演者の選出・決定を行う予定であることが報告された。

第 5 号報告 JNS 創立 50 周年記念行事 WG 準備報告

JNS 創立 50 周年記念行事ワーキンググループの國松淳委員長より、50 周年記念ロゴマークを作成し、NEURO2024 にてクリアファイルとチラシを配布したことが報告された。第 48 回大会（新潟）に向けた記念シンポジウム、アート展示イベント、一般向けイベント等の準備を進めていく方針が示された。

第 6 号報告 Neuroscience Research 報告

Thomas J. McHugh 編集主幹より、Neuroscience Research 発行に関し、2024 年に投稿された論文の査読審査実績や特集号発行実績について報告が行われた。Open Access 化によって論文投稿数自体は減少したものの、採択される論文数は 2023 年と大差ないと思われる。論文閲覧数は増加しており、それによって Citation や Impact Factor の増加へつながる可能性について報告があった。また、NEURO2024 において、Neuroscience Research 論文賞の授賞式および受賞講演が執り行われたことが報告された。ELSEVIER/NSR シンポジウム、Meet the Editor ブースも盛況であった。その他、2025 年以降の活動計画などが示された。

第 7 号報告 奨励賞選考委員会報告

奨励賞選考委員会の上川内あづさ委員長は欠席であったため、山中理事長より、選考結果の報告があった。選考方針について確認のうえ、受賞候補者 5 名（うち女性 1 名）が選出されたことが述べら

れた。また、審査において議論された点の説明があった他、次期選考委員長には浜松医科大学・山末英典教授を選出したことが報告された。

第8号報告 アルトマン賞報告

ジョセフ・アルトマン記念発達神経科学賞選考委員会の中島欽一委員長から、アルトマン賞の運営に関する報告があった。NEURO2024 会場にて第8回（2024年）受賞者に対し授与式と夕食会を開催したこと、現在第9回（2025年）受賞候補者を募集中であることが報告された他、今後のスケジュールなどが示された。

第9号報告 理事選挙 準備・実施報告

山中宏二理事長より、2025年度理事選挙のこれまでの準備状況と今後の実施スケジュールについて報告が行われた。

第10号報告 アジアオセアニア神経科学連合（FAONS）報告

筒井健一郎理事長補佐（FAONS 担当）から、アジアオセアニア神経科学連合の活動や現状などの報告が行われた。現在、加盟国のうち日本だけが運営費・業務負担ともに貢献比率が突出して高いため、今後、各加盟国の運営費の分担比率を適正化するため、新しい枠組を確立することを目指すという方針が示された。

【審議事項】

第1号議案 アルトマン賞 趣旨規程の改定

山中理事長より、アルトマン賞の趣旨規程に関して、「賞金」、「副賞」、「研究助成金」を「賞金」に統一し、規程の改廃に関する定めを追加、誤字の訂正を加えた改定案が示され、議場に諮ったところ、全員一致を以って可決承認した。

第2号議案 第51回大会（2028年）の会場

第51回大会（2028年）の会場について、神戸、福岡、京都、沖縄を候補地として意見交換を行った。その後、山中理事長から投票するよう議場に諮り、福岡コンベンションセンターを議決権の過半数を以って可決承認した。

第3号議案 NSR 次期編集主幹の選任

山中理事長から、現在の NSR 編集主幹と編集委員の任期は 2025 年 12 月末で終了となるが、現在のエルゼビア社との契約期間が短く、その後の契約や内容も未定であることから、現在の編集体制を維持しつつ今後の対応を検討するため、2026 年 12 月末まで延長する提案があり、議決権の過半数を以って可決承認した。

第4号議案 海外会員制度の再検討と賛助会員特典の強化

会員制度検討ワーキンググループの花川隆委員長より、会員カテゴリーごとの会費や人数の推移に関する現状の説明が行われた。近年の Web 会議システムの浸透により、遠隔地からでも総会（評議員会）や理事会に出席可能になったため、2023 年の一般社団法人化後は海外会員も評議員選挙への立候補や投票が可能になっており、国内会員との差がなくなった一方で、海外会員の年会費は現在も国内会員の半額のままであることから、会費収入の確保という意味でも見直しの時期となっている点を改めて意識共有した上で、意見交換を行った。今後、海外会員のうち恒常的に海外に暮らす者（外国人）と一時的に海外に居住する者（日本人）の割合や、他国の学会の海外会員制度を調べるな

ど、参考となる情報収集を更に行いつつ、海外で活躍する若手会員への支援を継続する方法についても検討することとなった。他に、賛助会員（企業会員）の増加を目指すため、特典の充実を図るという案が示された。海外会員制度と併せて引き続き会員制度検討ワーキンググループで審議し、次回理事会で素案を出すものとした。

【各委員会・WGの活動報告】

第1号報告 人材推薦委員会報告

山中委員長から、引き続き各種研究助成や賞、各種委員、学会委員等に対して会員の推薦を行ったとの報告があった。特に今期は、理事選挙に向け、ダイバーシティ対応委員会と合同で、追加候補者の推薦を行ったとの説明があった。

第2号報告 将来計画委員会報告

宮川剛委員長から、NEURO2024（福岡大会）で開催したランチョン大討論会の報告があった他、本学会・日本学術会議等が中心となった実施した雇い止め問題についてのアンケートの紹介が行われた。このアンケート結果をもとに提言をとりまとめる他、第48回大会（2025年新潟）でもランチョン大討論会を行う予定であるとの計画が示された。

第3号報告 将来計画委員会 日中韓 WG 報告

尾藤晴彦委員長から、CJK Meeting 開催に関する MoU 文書について交渉やとりまとめを行い、現在は最終版に署名をする最終手続きに入っているとの報告があった。今後は第3回 CJK 国際会議（2025年8月24日～27日、韓国）への参加呼びかけや、第4回 CJK 国際会議（2027年7月20日～23日、幕張）の検討を開始するとの目標が述べられた。

第4号報告 人材育成 WG 報告

田中謙二委員長より、年次大会での若手育成塾の実施状況等の報告が行われた。また、若手研究者からの意見として「JNSは委員会が多過ぎる」「細分化し過ぎて全体像がわかりにくい」などの声が紹介された。また、以前に実施した合同大会に関する意識調査の結果を再度精査して次回理事会で報告することになった。

第5号報告 大会委員会報告

大塚稔久委員長は欠席により不在であったため、山中理事長より代理で報告が行われた。ブレインサイエンス振興財団との間で、年次大会で行われる塚原賞受賞講演の会場費等をブレインサイエンス振興財団に負担いただく契約を締結した旨の報告があった。

第6号報告 国際連携委員会報告

合田裕紀子委員長から、中国神経科学学会との二国間シンポジウムの実施・準備状況、SfNでのSocialの企画内容、他の国際組織との間で行っている相互トラベルアワードの実施状況、ANS（Australasian Neuroscience Society）やCAN（Canadian Association for Neuroscience）との間で締結したMoUの内容などが報告された。SfNで行われるSocial（Japan Night）に本学会がどう関わるか、戦略的に進める必要があるとの意見交換が行われた。

第7号報告 情報基盤整備委員会報告

吉本潤一郎委員長より、学会ホームページ等の保守・管理業務委託先を変更したとの報告があった。これに伴い若干の月額費用の増加があったことが説明された。今後は持続可能な形での新しいホームページ作成・管理業務先の選定や導入時期の検討を継続するとの予定が示された。

第 8 号報告 神経科学ニュース編集委員会報告

村松里衣子委員長は途中退室により不在であったため、代わって山中理事長より報告が行われた。予定通りに編集・発行作業を続けていることが報告された。

第 9 号報告 ホームページ委員会報告

掛川渉委員長から、引き続き会員の先生方に有益な情報、一般の方に神経科学研究に興味を持ってもらえるような情報の発信を心掛けて活動している旨の報告があった。最近神経科学トピックスへの投稿が減少傾向にあるため、出席者に対し是非投稿して欲しいとの呼びかけがあった。

第 10 号報告 アウトリーチ委員会報告

松元健二委員長から、NEURO2024 福岡で行われた市民公開講座についての報告が行われた。現在、動画公開に向けて編集作業中であることや、第 48 回（2025 年新潟）大会の企画に向け準備中であるとの説明があった。

第 11 号報告 産学連携推進委員会報告

松元健二委員長より、NEURO2024 福岡で実施した産学連携シンポジウム（神経化学会との合同企画）について報告があった。第 48 回（2025 年新潟）大会では産学連携に「官」を加えた産官学連携の内容で企画・準備中である旨が述べられた。また、これまで年次大会では一般演題の登録時に「産学連携演題」かどうかを選択してもらっていたが、現在この情報を活用できていないため、対策を検討する旨の説明があった。

第 12 号報告 アドボカシー委員会報告

松田哲也委員長から、来年度予算に向け省庁との議論を続けており、どのような見込み状況であるかなどの報告が行われた。今後も何か共有すべき情報があれば理事会などで報告していくとの方針が述べられた。

第 13 号報告 利益相反委員会報告

松田哲也委員長より、役員・関係者から利益相反の申告書を提出してもらったとの報告があった。現在の COI 指針のタイトルが「産学連携による医学研究の利益相反（COI）に関する基本指針」となっているが、現在では対象は医学研究だけに限らないため、次回理事会までに修正改定案等を検討する予定であるとの計画が示された。

第 14 号報告 脳科学時点編集委員会報告

林康紀委員長から、編集長が多忙で動けなかった場合でも進むような体制を構築すべきかを検討中であるとの報告があった。

第 15 号報告 学術多様性委員会報告

勝野雅央委員長は欠席のため不在であったことから、代わって山中理事長より報告が行われた。NEURO2024 では神経化学会との連携シンポジウムを実施したこと、第 48 回（2025 年新潟）大会では「脳神経科学研究における双方向性トランスレーショナルリサーチ」というテーマで企画中であることが報告された。

第 16 号報告 ダイバーシティ対応委員会報告

渡部文子委員長より、NEURO2024 で実施したランチタイムミニシンポジウムについて、参加者からの活発な質疑応答などもあり、大変良い内容のシンポジウムとなった旨の報告があった。今後の課題として、委員に任期を定めることで、よりたくさんの方に関わっていただき、意識を高める方法を模索中であるとの説明があった。

第 17 号報告 倫理委員会報告

花川隆委員長より、本学会の「ヒト脳機能の非侵襲的研究」の倫理問題等に関する指針を、「ヒトを対象とした脳・神経科学的研究の倫理問題等に関する指針」にアップデートする方針で準備を進めているとの報告があった。

第 18 号報告 動物実験委員会報告

竹村文委員長から、【霊長類を対象とする実験ガイドライン】のフォローとしてアンケートを行ったとの報告があった。

第 19 号報告 ブレインビー委員会報告

奥村哲委員長から、2024 年第 11 回大会の結果詳細の報告が行われた。また、2025 年第 12 回大会の日程は間もなく公表される見込みであるとの説明があった。第 48 回（2025 年新潟）大会にも入賞者の高校生が参加する予定であり、応援していく計画が示された。

第 20 号報告 生物科学学会連合担当委員会報告

宮田麻理子委員長は退席済みで不在であったことから、代わって山中理事長より報告が行われた。本学会も脳科連として賛同した「科研費増額の要望書」は、無事に提出されたことなどが報告された。

第 21 号報告 脳科学関連学会連合担当委員会報告

山中宏二委員長より、脳科連の次期執行部の選出を行っているところである旨の情報共有があった。今後も引き続き、脳科連と連携しつつ、問題に対処していく目標が示された。

Web 会議システムを使用した当該理事会は終始異状なく、議長は、以上をもって本日の議事が終了した旨を述べ閉会を宣した。

上記決議を明確にするため、本議事録を作成し、定款第 41 条の規定に基づき出席理事長及び監事が次に記名押印する。

令和 7 年 月 日

一般社団法人日本神経科学学会 理事会

理事長（代表理事） 山中 宏二 （法人実印）

監事 富田 泰輔 （認印）

会員種別	正会員		海外正会員		若手会員	海外若手	学生会員		海外学生会員		シニア会員
パネル	会員数	入会者数	会員数	入会者数	会員数	会員数	会員数	入会者数	会員数	入会者数	会員数
1 分子・細胞神経科学	1,692	0	179	0	240	49	135	0	8	0	59
2 システム神経科学	1,244	0	145	0	198	60	96	0	14	0	66
3 臨床・病態神経科学	540	0	31	0	65	11	32	0	3	0	15
4 その他の神経科学	238	0	22	0	109	23	75	0	3	0	1
5 パネル不明	198	(48)	137	(39)	63	19	369	(110)	110	(42)	0
合計	3,912	(48)	514	(39)	675	162	707	(110)	138	(42)	141

2024年10月1日

会員種別	正会員		海外正会員		若手会員	海外若手	学生会員		海外学生会員		シニア会員
学術ドメイン	会員数	入会者数	会員数	入会者数	会員数	会員数	会員数	入会者数	会員数	入会者数	会員数
A Basic Neuroscience 基礎神経科学	1,480	(29)	183	(28)	173	41	377	(66)	85	(34)	62
B Systems & Information Neuroscience システム・情報神経科学	575	(8)	64	(7)	74	19	135	(32)	22	(4)	17
C Clinical & Pathological Neuroscience 臨床・病態神経科学	506	(11)	31	(4)	51	8	72	(12)	19	(4)	14
D ドメイン不明	1,351	0	236	0	377	94	123	0	12	0	48
合計	3,912	(48)	514	(39)	675	162	707	(110)	138	(42)	141

その他の会員	会員数	入会者数
賛助会員(1) 複数申込 ※	1	(0)
賛助会員(2) 1口(10万円)	10	(0)
名誉会員	19	(0)

※成茂科学 10口

全会員数	6,279
------	-------

2024.4.1~2024.9.30

■届出退会:100名

パネル別	正会員	海外正会員	若手会員	海外若手	学生会員	海外学生	シニア	小計
1 分子・細胞神経科学	16	2	10	1	4	0	1	34
2 システム神経科学	19	0	4	1	1	0	0	25
3 臨床・病態神経科学	8	0	5	0	1	0	2	16
4 その他の神経科学	8	0	4	0	0	0	0	12
5 パネル不明	2	0	7	0	4	0	0	13
合計	53	2	30	2	10	0	3	100

学術ドメイン別	正会員	海外正会員	若手会員	海外若手	学生会員	海外学生	シニア	小計
A Basic Neuroscience 基礎神経科学	6		3		2			11
B Systems & Information Neuroscience システム・情報神経科学	2		6		3			11
C Clinical & Pathological Neuroscience 臨床・病態神経科学	3		2		1			6
D ドメイン不明	42	2	19	2	4		3	72
合計	53	2	30	2	10	0	3	100

(退会理由) 研究分野・職種変更:34名、卒業:28名、定年退職:13名、退職(定年を除く):4名、逝去:1名、その他:20名

日本神経科学学会会員構成の推移(2016～2024)

年度 会員種別	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
基準日	2016/7/1	2017/7/1	2018/7/1	2019/7/1	2020/7/1	2021/7/1	2022/7/1	2023/12/1	2024/10/1
正会員	4,895	4,764	4,448	4,379	4,321	4,241	4,115	3,988	3,912
海外正会員			151	303	411	495	443	474	514
若手会員	166	191	237	240	222	207	315	537	675
海外若手会員			15	24	26	29	37	101	162
学生会員	734	871	831	759	738	692	777	724	707
海外学生会員			73	45	53	18	51	100	138
シニア会員	26	62	80	103	104	109	127	134	141
准会員	313	375	265	120	0	0	0	0	0
賛助会員(1) 複数口(10万円)	2	2	1	1	1	1	1	1	1
賛助会員(2) 10万円	7	8	10	9	7	6	6	10	10
名誉会員	22	22	21	19	18	18	19	18	19
全会員数	6,165	6,295	6,132	6,002	5,901	5,816	5,891	6,087	6,279